

戸田市スポーツセンター 再整備に向けた提言書

令和6年12月

戸田市議会 市民生活常任委員会

はじめに

戸田市スポーツセンターは、昭和55年の開設から、市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として重要な役割を担っているが、施設の老朽化が進行しており、施設の在り方を複合的に検討した結果、建て替え再整備を進めていくことが決定された。

再整備に当たっては、スポーツ施設としての機能の充実を図ることはもちろんのこと、スポーツをする人だけではなく、誰もが気軽に利用できて、「スポーツ推進や健康増進に寄与できる施設」であり、さらには「防災機能の強化や文化活動の推進、まちのにぎわい創出にもつながるよう持続可能な**複合施設**」となることが求められる。

当委員会では、先進自治体への行政視察を行い、新しい施設の仕様やにぎわい創出の取組などの見識を深めるとともに、基本構想策定業務の担当者との事業手法の理解促進を図るなど、スポーツセンターの再整備に当たって、文化・スポーツの観点から調査研究を進め、本書のとおり提言書としてまとめたものである。

現状と課題

【現状】

戸田市スポーツセンターは、昭和55年の開設から、市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として重要な役割を担っている。

市の中央部に位置し、第2種住居地域、第1種高度地区、新曽第一地区土地区画整理事業の区域内となっている。

施設の構造は、鉄骨鉄筋コンクリートで地下1階、地上4階で、ゲーム棟（第1競技場ほか）、センター棟（柔道場、剣道場ほか）、プール棟、屋外施設（陸上競技場、テニスコートほか）で構成されている。

【担当課ヒアリングによる主な課題】

- 新曽第一土地区画整理事業の対象区域であり、敷地の一部が都市公園予定地である
- 第二種住居地域では原則「観覧場」（観客席）を設置できない
- 環境空間の活用について
- アーバンスポーツの施設整備のニーズ、可能性について
- 工事期間における施設利用の影響を可能な限り抑える手法の検討

現状と課題

【委員会で検討した主な課題】

●公式試合等への対応

陸上競技場が300mトラックであることや観覧席がないことから、公式試合や公式記録に対応することが難しい。体育館も同様に2階席は選手控室となっており大きな大会を開催することが難しく、中途半端な施設という印象がある。

●限られた敷地の中での競技種目の選定

上記課題を解決するためには、400mの陸上トラックや観客席のあるアリーナなど施設の拡充が求められるが、現在の敷地面積では拡充は困難であり、環境空間の活用などの検討が必要となる。

●市民利用の制限

土日・祝日については、スポーツ団体の大会や試合等により先行予約が入っており、一般利用が取りにくい状況がある。

●駐車スペース不足への対応

まちなかに立地し、敷地が狭く、駐車場も分散されているため、土日・祝日や大会等の開催日における駐車スペース不足や大型バスの乗り入れが困難である。

●気軽に利用しやすい雰囲気づくり

駅から徒歩圏内にあり、図書館・郷土博物館が隣接するまちの中心地であるが、敷地内に休憩場所や多目的な空間がなく、スポーツをしない人にとっては入りづらい雰囲気がある。

検討に当たってのキーワード

防災機能

誰もが集える

有識者会議

文化・コミュニティ

にぎわい創出

プロスポーツ・興行試合

多目的・複合的

構想から市民参画

公式記録

稼げる施設

駐車場

カフェ・飲食

400mトラック

中途半端ではない

若者向けスポーツブランドとの連携

P F I

民間活力の活用

まちづくり

長期契約

収益の一部を市に還元

戸田駅・北戸田駅からのアクセス

提言（１）将来ビジョンに基づく「コンセプト」の明確化

①コンセプトが明確でわかりやすい複合施設にすること

- ・視察先の各施設のコンセプトには「健康」「防災」「文化」「にぎわい」などの観点が入っており、スポーツをする人もしない人も誰もが集える複合的な機能を持った施設となっている。
- ・基本構想・基本計画策定の際に将来を見据え、コンセプトを明確にすることで、オープン後にその特徴が表出した施設になっている。
- ・東日本大震災以降に整備された各施設では「防災」が共通するコンセプトのひとつに挙げられている。

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

「CONNECT コネクト（つなぐ）」をキーワードに、地域にひらかれたランドスケープデザインで、あらゆる市民を呼び込み、人と人、地域をつなぎ、そして未来につないでいく。



地域にひらかれたデザイン



（出典）西宮市資料

アリーナと陸上競技場

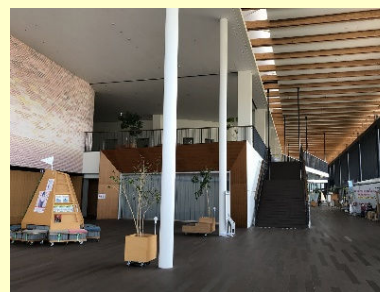


（出典）西宮市資料

かみす防災アリーナ

「もしも」のときも、「いつも」のところへ

- ①スポーツと文化をつなぎ、新たな交流と出会いを生む活動の場
- ②公園に向けて広く開き、平常時の賑わいが溢れ出る憩いの場
- ③平常時の賑わいが災害時の助け合いにつながる防災の場
⇒「スポーツ」「文化」「防災」を重視した施設に



公園と屋内をつなぐ
コミュニケーションコリドー



（出典）神栖市資料

もしものときはアリーナが避難所に

提言（２）民間活力の導入

①民間のノウハウを活用した再整備事業を進めること

- ・屋内外の様々な競技種目を備えるスポーツセンターは、整備に当たって専門性が求められる。一方で、限られた敷地の中での整備には、フレキシブルに利用できる仕様も求められる。
- ・健康、文化、防災、にぎわい創出など、スポーツの専門性のみならず、幅広い知見から事業を進める必要がある。
- ・市が一つ一つ契約すると費用と時間がかかるため、一括して契約・整備を行うことで事業費や期間を抑えることができる。

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

「PFI手法・BTO方式を採用」

- ・民間事業者の経験とノウハウを活用し、事業費の縮減を図り、市民にとって魅力的な施設の整備と運営を行う。

「民間提案施設を採用」

- ・民間からの提案を受け、タリーズコーヒーとゴルフスタジオを設置予定。にぎわいの創出と事業者の収益の確保。



②長期的な視点で事業期間の設定を

- ・長期間の契約とすることで、費用の節減やアイデアの創出が期待できる場合には、前例にとらわれず事業期間を設定することが望ましい。
- ・長期的な事業期間とする場合には、アーバンスポーツやeスポーツなど新興スポーツを考慮し、社会情勢や市民ニーズの変化に柔軟に対応できる体制づくりが必要である。

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

「PFI事業を20年間に」

- ・安定的な運営と20年分ノウハウを蓄積して生かすことができる。（新興スポーツなど時代の変化に対応できる仕様に）

「使用料収入の3%を市に納付」

- ・既存施設の稼働率が高く、人口の将来予測から安定した収益が見込め、事業者で対応できない修繕などの原資に充てられる。

かみす防災アリーナ

「PFI事業・BTO方式を採用」

- ・事業期間は、設計から建設、その後の運営、維持管理までを含め、約18年間（建設まで3年間、運営15年間）の契約

提言（３）市民ニーズの集約・反映

①市民ニーズの把握に努め、外部の専門的な視点を取り入れること

- ・パブリック・コメント等により市民の意見を聴取しているが、ある程度形が決まってからの意見聴取となることが多く、結果的に意見が反映されないケースも見受けられる。
- ・早い段階から市民アンケート等により市民ニーズの把握に努めることや、基本構想・基本計画の策定に当たって、市民が参画して意見を言える機会を設けることで、長年愛される施設になっていくと考える。
- ・行政だけ、市民だけ、事業者だけでは見落としてしまう視点もある。スポーツセンターは陸上競技場や体育館、プールなど様々な競技種目があるほか、健康、文化、防災等の視点も考慮すると有識者など外部の専門的な視点も重要となる。

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

「有識者座談会」

- ・公園、スポーツ施設、スポーツ科学、建築、都市計画、施設管理、公認会計士など、各分野の専門家から、計画や設計に対する意見や、再整備事業の方向性が市民ニーズや社会情勢から乖離していないか助言をいただいている。



（出典）西宮市資料

「誰もが遊べる公園づくりの意見交換会」

- ・公園で安心して遊べない人たちの課題を考えるため、障害のある方やそのご家族、多胎児を育てる保護者に参加いただき意見交換会を実施（右）



（出典）西宮市ＨＰ



（出典）西宮市ＨＰ

「アイデアワークショップ」

- ・建築・インテリアデザイン、観光・地域マネジメント専攻の学生からアイデアを募集（左）

提言（４）誰もが集えるにぎわい創出の拠点に

①スポーツをする人もしない人も気軽に集える拠点に

- ・ BリーグやVリーグなど盛り上がりを見せ、スポーツは「観る」要素も重要視されており、興行試合の開催は多くの人が集い、にぎわいの創出にもつながる。
- ・ スポーツのほか、音楽イベントや文化展の開催などフレキシブルに利用できることは、幅広い市民の利用が見込める。
- ・ 興行試合や大規模イベント等の開催には、市民利用を制限しすぎないことや最低限の駐車場の確保などを考慮する必要がある。

池の川さくらアリーナ

- ・ 年に数回、大相撲の巡業やプロバスケットボールの試合、音楽ライブなどを開催。4,000人を超える観客が来場。



オープンハウスアリーナ太田

- ・ 群馬クレインサンダーズのホームタウンとして、年間30試合のホームゲームを開催。ホームゲームではアリーナの外でもOTAマルシェを開催し、会場はお祭りのようににぎわいを見せる。



②駅からアクセスしやすく地域に開かれた施設に

- ・ 新曽地域は、第2次戸田市都市マスタープランの将来の都市づくりの目標として「2つの駅を活かした、多様性のある便利で快適なまち」に設定されている。

スポーツセンターは戸田駅と北戸田駅の間に位置し、徒歩圏内であることから、駅から自然と足が向かうような動線の工夫やアクセスしやすい出入口の配置とすることで、利用の促進やにぎわいの創出が期待できる。

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

- ・ 地域にひらかれたランドスケープで、周囲に壁をつくらず、どこからでも入れて、公園内の活動風景を見せるデザインにしている。



オープンハウスアリーナ太田

- ・ 市が群馬クレインサンダーズのホームタウンであることを周知するため、アリーナのほか駅や公共施設などにチーム・選手フラッグ等の装飾や試合会場のイルミネーション・ライトアップなどを行いPR活動を実施。



提言（５）防災機能の強化

①避難所機能の充実を図り、災害時を想定した仕様とすること

- ・近年の自然災害の激甚化や首都直下地震の脅威が迫っているなか、受入人数の拡大、備蓄品の充実、災害時の電源・給水など万全な災害対策が求められる。
- ・災害時に指定避難所となることを想定した建物・諸室の設計をしておくことで迅速な避難所設営につながる。

かみす防災アリーナ

- ・メインアリーナは照明に頼らず自然採光で日中に床面 500ルクスの照度を確保（右上）
- ・音楽ホールの客席はフラットになり、避難時にはベッド代わりに利用可能（右下）



（出典）神栖市資料



オープンハウスアリーナ太田



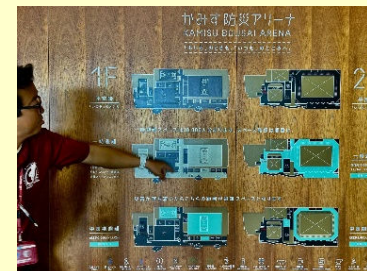
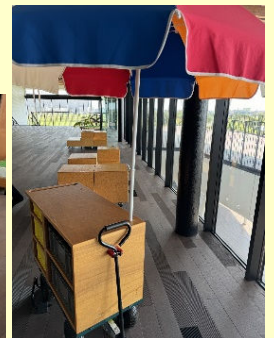
- ・入口と出口を別にして一方通行にすることで、大人数が利用する際も、混雑を避けられる設計に（左）

②平時の利用が災害時に生きる工夫を

- ・日ごろ使い慣れた施設や設備が災害時に利用できることで避難所での活動がしやすくなる。
- ・防災関連の情報を施設内に表示し、平時から防災意識の啓発を図ることでスムーズな避難につながる。

かみす防災アリーナ

- ・キャスター付き家具を配置し、平時はベンチとして利用、災害時には使い慣れたベンチが台車などにアレンジして利用することが可能（右）



- ・避難場所や避難経路などを壁面に表示することで、日ごろから防災意識が高まり、災害時の迅速な避難や円滑な避難所運営につながる（左）

プロシードアリーナHIKONE

- ・平時に利用しているベンチが災害時にはかまどになり炊き出し可能に（右）



（出典）彦根市資料

資料編

日 程	内 容	
令和6年 2月～12月	常任委員会 (毎月1回以上)	2月～10月までは調査・研究を行い、10月以降は提言書の作成を行った。
4月12日	執行部ヒアリング	戸田市スポーツセンター現状と課題、再整備事業についてヒアリングを行い、現状の確認を行った。
5月1日 ～5月2日	行政視察 (兵庫県西宮市 ／滋賀県彦根市)	西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業の民間活力を活用した事業手法等について、プロシードアリーナHIKONEの施設見学および運営手法等について視察を行った。
8月20日	参考人招致	戸田市スポーツセンター基本構想策定業務を担当するパシフィックコンサルタンツ株式会社の担当者を参考人として承知し、民間活力を活用した事業手法について理解を深めた。
10月1日 ～10月2日	行政視察 (茨城県日立市 ／茨城県神栖市)	日立市池の川さくらアリーナ（陸上競技場含む）、かみす防災アリーナの施設見学および運営手法等について視察を行った。
10月16日	行政視察 (群馬県太田市)	オープンハウスアリーナ太田（陸上競技場含む）の施設見学および運営手法について視察を行った。

事例紹介 1 西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

コンセプト

- ・市のスポーツ推進の中核をなす総合運動施設、また地域の緑の拠点として再整備を行い、スポーツと緑を通じた豊かなまちづくりに資する。
- ・キーワードは「CONNECT コネクト（つなぐ）」。地域にひらかれたランドスケープデザインで、あらゆる市民を呼び込み、人と人、地域をつなぎ、そして未来につないでいく「西宮 CONNECT コネクトパーク」を創造する。



(出典) 西宮市資料

地域に開かれたデザイン



(出典) 西宮市資料

民間提案のコミュニティカフェ

民間活力の導入

PFI-BTO方式を採用！！

- ・体育館、陸上競技場、公園施設の整備など、多くの要素が含まれており、効率的な施設整備を行う必要がある。（市が一つ一つ契約すると時間も費用もかかる。）
- ・民間事業者の経験とノウハウを活用し、事業費の縮減を図り、市民にとって魅力的な施設の整備と運営を行う。

PFI事業を「20年間」に！！

- ・安定的な運営と20年分ノウハウを蓄積して生かすことができる。
- ・アーバンスポーツなど時代の変化に対応できる仕様書に。

使用料収入の3%を市に納付！！

- ・既存施設の稼働率が高く、人口の将来予測からも安定した収益が見込める。
- ・事業者で対応できない修繕やイベント実施の原資に充てられる。

民間提案施設！！

- ・事業者による独自アンケートを実施した結果、トレーニングジムとカフェの要望が多かった。⇒民間からの提案を受け、タリーズコーヒーとゴルフスタジアムが入る予定。にぎわいの創出と事業者の収益の確保に。

まちなかの施設として、にぎわい創出の拠点に

市の中心部のスポーツを通じたにぎわいの拠点に

- ・西宮駅から1km圏内にある総合運動公園の中に中央体育館、陸上競技場をはじめ、トレーニングジムや民間提案のコミュニティカフェを展開し、スポーツをする人もしない人も誰もが集える拠点に。
- ・周囲に壁をつくらず、どこからでも入れる地域に開かれた賑わい創出の拠点に。

限られた敷地の中で施設整備の条件を整理

敷地面積約5万5千平方メートルの敷地の中で、様々な市民ニーズのすべてをかなえることが困難。施設整備に当たっては以下のとおり条件を整理。

- Ⅰ 再整備必要施設：市として再整備することが必要な施設
- Ⅱ 再整備条件施設：市として一定の条件を満たす場合に再整備する施設
- Ⅲ 整備提案施設：市としては再整備しないが、民間事業者による提案として整備する施設

【一例】

- ・温水プールの要望⇒市内に民間施設あり、多額の維持管理費⇒断念。
- ・当初プロチームのホームアリーナを予定⇒設備要件が厳しく多額の建設費用、市民利用が制限される⇒断念し市民利用・市民大会を優先した施設に。

有識者座談会をはじめ様々な立場の方から意見聴取

スポーツ・建築・都市計画など各分野の有識者からの意見聴取

- ・公園、体育館、陸上競技場等の整備から施設の意維持管理、運営、民間提案施設の運営など多岐にわたる事業を進めるにあたり各分野の有識者から意見をもらう。
- ・再整備のコンセプトの方向性や社会の流れをくんでいるかなど、外部の視点から助言をもらうほか、PFI事業者選定の選定委員も務めてもらう。

市民からの意見聴取

- ・市民パブリックコメント、体育協会加盟団体、障害者団体、障害のある方やそのご家族など幅広く市民意見を聴取 ⇒インクルーシブな広場の整備へ

大学生からの意見聴取

- ・建築・インテリアデザイン専攻の大学生とワークショップを行い、公園計画、建築計画、照明改革に関するアイデアをもらう。

事例紹介2

彦根市スポーツ・文化交流センター (プロシードアリーナHIKONE)

コンセプト

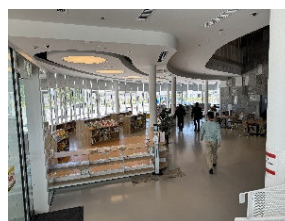
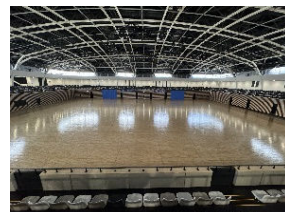
- ①競技力向上を図り、健康づくり、体力づくりを推進する施設
- ②誰もが使いやすく楽しむことができ、人と人が集う、“まちなか交流の拠点”としての施設
- ③市民の生活をサポートする施設



スポーツと文化が融合した施設

スポーツ機能と文化機能を併せ持つ複合施設

- ・スポーツ棟（上）には、バスケットボールコート3面分のメインアリーナ、サブアリーナ、ダンス室などを備え、メインアリーナでは年に数回、**Vリーグや大相撲等の興行試合や高校の体育祭**での利用も予定されている。
- ・まちなか交流棟（下）には、まちなか交流ラウンジや多目的ホール、教養文化室を備え、**文化活動の場**となっている。



ミズノグループを代表とした団体による指定管理

ミズノを代表とした彦根にぎわい創出パートナーズが指定管理

- ・**全国展開するミズノのノウハウ**を生かし、スポーツ教室や講座などを実施。ミズノ所属選手によるバドミントンイベントやオンラインのバーチャルダンススタジオなど、利用者から好評を得ている。
- ・ミズノではヨガや茶道など様々な**文化講座も開催**。



事例紹介3 日立市池の川さくらアリーナ

様々なプロ・アマスポーツチームと協定

プロ・アマスポーツチームとホームタウン/マザータウン協定を締結

- ・日立市は市内や近隣で活動するプロ・アマスポーツチーム（バスケット、バレー、都市対抗野球、卓球、ラグビー）とホームタウン/マザータウン協定を締結し、施設を優先的に使えるようにする代わりに、試合等では市民への優待や子供たちの育成に協力してもらうなど、関係性を築いている。



オープンから7年が経過し、見えてきた主な課題

選手控室が4部屋あると大会運営がしやすい！！

- ・2部屋備えているが、大きな大会で複数チームが参加する際や興行試合を行う際にはチーム同士がかち合わないよう4部屋あるとよい。

メインアリーナ外側に周回できる通路があると運営しやすい！！

- ・メインアリーナの外側を回れる通路がなく、可動席を出すと競技面に入るか一度外に出ないと反対側に回れない。

トレーニングルームの人气が高く手狭！！

- ・オープン前の想定より人气が高く、混雑して手狭になっている。

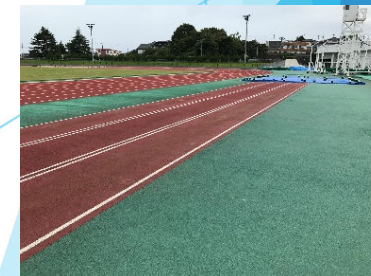
日立市市民運動公園陸上競技場（アリーナ隣）

第3種公認陸上競技場として市内大会や県大会など開催！！

- ・茨城県の県北地区で唯一の第3種公認陸上競技場として、市内の大会や県大会の陸上競技の大会の会場として使用され。現在ではサッカーやラグビーなど様々なスポーツやイベントで利用されている。

維持管理にはランニングコストがかかる

- ・5年ごとの公認認定、芝やトラックの改修、投てき種目の器具の更新など、維持管理には多額の費用がかかる。



事例紹介4 かみす防災アリーナ

コンセプト

「もしも」のときも、「いつも」のところへ。

- ①スポーツと文化をつなぎ、新たな交流と出会いを生む活動の場
- ②公園に向けて広く開き、平常時の賑わいが溢れ出る憩いの場
- ③平常時の賑わいが災害時の助け合いにつながる防災の場



スポーツ・文化の活動で賑わい 市民が憩う 地域防災拠点

平常時には安全・安心な環境の中で、スポーツ等を通じた市民の健康づくりに寄与し、各種イベントの開催により多くの人が集い、市の中心部にふさわしい賑わいを創出する。

メインアリーナ・サブアリーナ

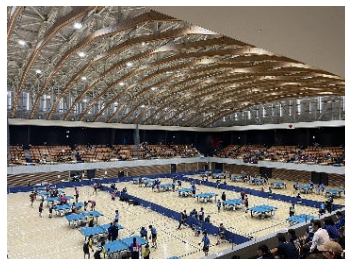
- ・メインアリーナでは、市民利用をはじめ、中高体連の大会、実業団等の試合のほか、バスケットボール等の興行試合を開催。災害時は自然彩光で500ルクスの明るさを確保。サブアリーナでは個人開放日として、あらかじめ利用できる種目を設定し、自由に利用可。

温水プール・トレーニング室・温浴施設

- ・プール、トレーニング室・温浴施設を月額5,000円で使い放題のため、多くの市民に利用されている。プールの水は災害時にトイレの洗浄水として利用できる。

音楽ホール

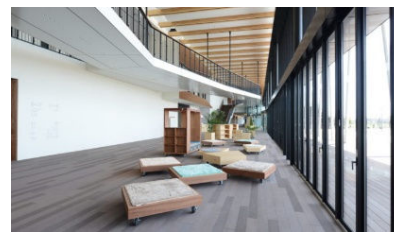
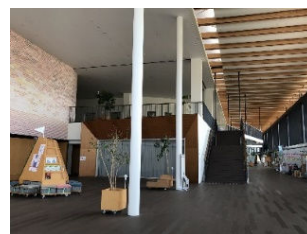
- ・300席程度の小規模ホールで、ピアノやダンスなどのコンサートを主な目的としながら、講演会や式典等にも使いやすい計画に。災害時は、災害状況の説明会場や避難スペースとして想定。



各諸室を並列配置して公園と一体利用しやすい配置計画

前面の公園と各諸室をつなぐコミュニケーションコリドー

- ・各諸室の並列配置にして、共用部を1階の公園側のグランドレベルに集中させている。前面の公園と各所室の間には、170メートル×10メートルの通用部をコミュニケーションコリドーと名づけ、公園側に大きく開く構造となっており、公園と一体的に利用しやすい配置計画になっている。平常時はコミュニティスペースとして、災害時に一時避難を受け入れるスペースとして利用される。



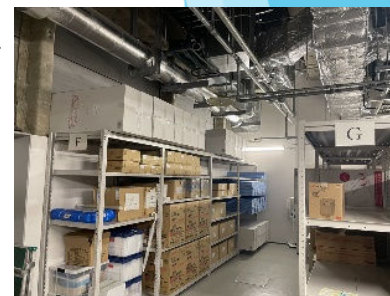
災害時を想定した設計

各諸室の災害時の対応

- ・メインアリーナは発災後3日間は1万人、中長期には2,000人の収容を想定。
- ・アリーナの防災倉庫は2,000名の3日分の非常食のほか各種災害用品を備える。
- ・各会議室は避難弱者（障害者、高齢者、妊婦など）のための避難場所に。
- ・カフェは災害時の炊き出しの場
- ・音楽ホールの座席はフラットになりベッドとして利用できる。

設備面の災害時の対応

- ・雑用水にプール水・雨水貯水槽を活用
- ・下水本管破断時もトイレ排水
- ・プロパンガスの残存分を炊き出しに活用
- ・施設全体に非常用電力コンセントに設置
- ・全てのトイレが停電時でも水を流せる。



事例紹介5 オープンハウスアリーナ太田（太田市総合体育館）

経緯

避難所拠点の在り方から建て替えを決定

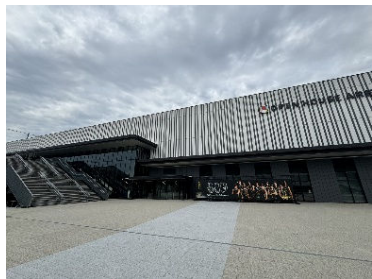
- ・令和元年東日本台風被害により、避難所拠点の在り方が問われ、早期建て替えの検討が進んだ。

スポーツによる持続可能なまちづくり

- ・シティプロモーションや交流人口・関係人口の獲得を目指し、新体育館の整備に当たって、プロスポーツチーム誘致により「スポーツによる持続可能なまちづくり」を掲げ地域の活性化を目指した。

Bリーグの群馬クレインサンダーズのホームタウン

- ・建て替えに当たって、Bリーグの群馬クレインサンダーズと意見が合致しホームタウンに決定。太田市出身のオープンハウスグループ社長の後押しもあり実現。



まちのシンボルとなる近代的なデザイン



華やかな演出のBリーグの試合

民間活力を活用した手法

企業版ふるさと納税の活用！！

- ・企業版ふるさと納税の活用し、企業から約44億円の寄付があり、寄附金のほか国からの交付金等により、総事業費82.5億円のうち、市の負担は約3分の1程度の27.5億円に。

設計・施工一括プロポーザル方式を採用

- ・金額よりも実績にこだわり、「観るスポーツ」のためのアリーナ整備に関して実績豊富な事業者を選定した。

ネーミングライツ制度の導入

- ・オープンハウスグループと3年間のネーミングライツ契約を締結し、年間1,100万円（税込み）の収入があり、維持管理費の一部に充てられている。

「観るスポーツ」を意識したコンパクトなアリーナ

「観るスポーツ」を演出する最新設備

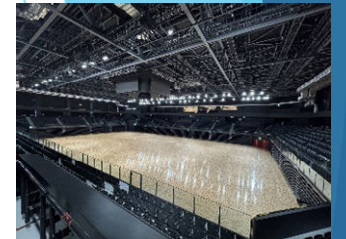
- ・4面3段昇降式の大型映像装置（LED 6,100インチ）、演出照明、スピーカー50台の音響設備など最新の設備を整備し「観るスポーツ」としてBリーグの試合を盛り上げる。



（出典）太田市資料

5,000人収容可能！

- ・1階可動席1,752席、2階固定席2,800席、車椅子席、ラウンジ席など合計4,700席。これにバスケットボールの試合ではコートサイド席を加え5,000人収容可能。



スポーツによる持続可能なまちづくり

施設やプロチームを介した魅力発信する事業展開

- ・ホームゲームに合わせ、まちを盛り上げ太田市の魅力を感じてもらうため「OTAマルシェ」を開催。飲食・物販販売のほか、近隣自治体の農産物の配布などを行い、太田市や周辺地域を知ってもらうきっかけに。（左下）

オフシーズンに選手が小中学校を訪問

- ・スクール活動支援事業として、Bリーグのオフシーズンに選手が市内小中学校を訪問し、小学校の登下校時の挨拶運動や中学校のバスケットボール指導を実施。太田市内では全中学校に男女バスケットボール部があり、バスケットボール文化が根付いてきていることがうかがえる。（右下）



（出典）太田市資料



（出典）太田市資料

おわりに

先進自治体を視察する中で、スポーツ施設の進化を目の当たりにして、「あったらいいな」を無数に感じるとともに、公認の陸上競技場や芝生の維持管理など課題も見聞することになった。

本市も、単なるスポーツ施設としてではなく、近隣には小中学校・高等学校や図書館・郷土博物館のある文教地区を意識し連携する、戸田市の顔となる施設が必要と考える。

将来に向けた100年を意識する施設にするためには、限られた敷地しかないと諦めることなく、民間や市民の知恵や工夫を生かした思い切った判断が求められる。

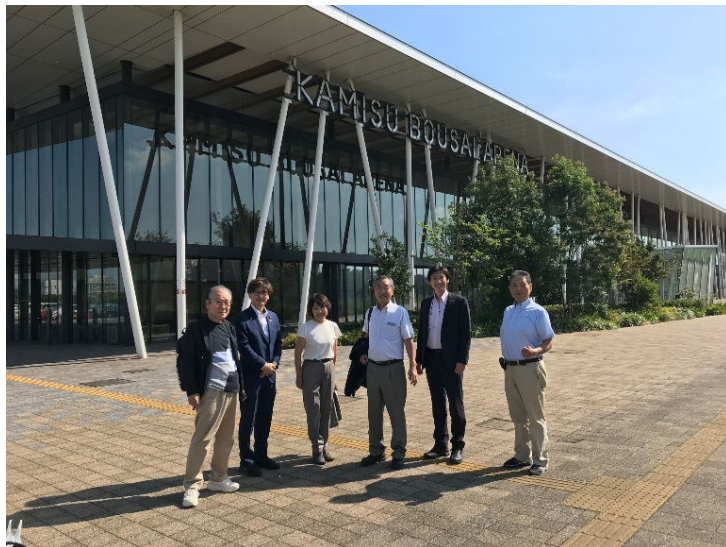
市民の理解を得られるよう、計画を常にオープンにし、市民がワクワクしながら施設が誕生するような仕組みを要望し、提言とする。



西宮市への行政視察



議員（委員）間討議の様子



令和6年 戸田市議会 市民生活常任委員会

委員長	斎藤	藤木	直照	子明
副委員長	熊小	金澤	冬和	優彦
委員	林浅三	生浦	芳	英一